

# 防衛大学校本科第54期、理工学研究科前期課程第45期、理工学研究科後期課程第6期及び総合安全保障研究科第10期学生入校式における防衛大学校長代理式辞

(平成18年4月5日)

春真っ盛りのここ小原台に、本日、防衛大学校本科第54期学生426名、理工学研究科前期課程第45期学生51名、同理工学研究科後期課程第6期学生7名、総合安全保障研究科第10期学生16名及び本科留学生15名、研究科留学生10名の新入生を迎えるにあたり、本校の教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。またこの式典のため、全国各地から遠路はるばる来られましたご家族やご親族におかれましては、ご子弟のご入校を衷心よりお慶び申し上げます。



学校長代理 馬場 順昭

この入校式を挙げるに当たり、公務ご多忙の折、高木毅防衛庁長官政務官をはじめ、多数の内外のご来賓のご臨席を賜りましたことに厚くお礼を申し上げます。ご来賓の方々がこうして将来の国防の任を担う若人の門出を祝福してくださいますことは、彼らにとっては勿論のこと、われわれ教職員にとりまして大きな励ましになります。

さて、この式典では、本科及び研究科の入校生のそれぞれにお祝いと心構えなどを申し上げたいと思います。

まず本科入校生諸君、諸君は多くの受験生の中から難関を突破し、防衛大学校への入校を認められました。本校は将来の自衛隊幹部たる有能な人材を養成するところであります。かかる学校への入校を決意し、本日この式典に列席するについては、真剣に深く考え、大いに悩んだことであらうでしょう。また、ご家族、恩師、友人等にも相談されたことであらうでしょうが、最終的には、諸君自身が決意し、行動したものだと思えます。私たち本校教職員は、諸君のその決意と行動を国家のために大いに歓迎し、またそのことに対して敬意を表します。心ある多くの国民も同じ気持ちであると信じます。

防衛大学校は、建学の理念として、「真の紳士・淑女にして、真の武人」ということを掲げてまいりました。即ち、防大生は、気品と学徳を備

え、他人への礼儀、力なき人々への慈しみの心、そしていかなる困難にも立ち向かう勇気を持った真の武人になって欲しいということです。初代学校長でありました榎智雄先生は、防大生の持つべき心情を的確に表現している言葉として、「ノーブレス・オブリージェ」という言葉をしばしばお使いになられました。これは、フランス語ですが、直訳すれば「高貴なる者には義務が伴う」ということです。将来、国の防衛と国際平和維持という崇高な使命を帯びた自衛隊の幹部となるべき防大生は、高い道義心を持ち、しかも、この道義に沿った行動は、外力による強制ではなく、自ら進んで行うものでなければならぬということです。

この理念を実現するために、本校では、大学教育、防衛学、訓練や、各種運動競技会、校友会活動、学生舎生活等が有機的に連携しあって、その教育効果があがるように計画されています。

大学教育については、一般大学と同様、幅広い教養と人文・社会科学または理工学に関する深い専門知識を身につけ、さらに、一般大学にはない防衛学に関する学理と応用も修得するように計画されています。そして卒業時には、大学評価・学位授与機構から一般大学と同様の学士号が授与されます。これは幹部自衛官となる者は、広い視野と科学的な思考力を持ち、伸展性のある資質を要求されるからであります。

また本校では、諸君に幹部自衛官になるための基礎的な訓練や、各種の運動競技・体育活動を行っています。その他の体育活動には校友会活動があり、学生自身によって自主自律の精神で運営されています。これらの訓練や運動等を通して、諸君は幹部自衛官としての職責を理解して、これに適応する資質と技能を修得し、かつ、強健な体力と旺盛な気力を養い、実際の活動のできる人となることが期待されています。

本校で最も特徴があるものの一つは、学生舎生活です。学生舎生活は、最初は慣れずに苦勞するかも知れません。しかし、2万2千人を超す本校卒業生の誰もが、規則正しい学生舎生活から多くのことを学んだと述懐しているように、やがて諸君も集団生活の重要性を認識するでしょう。新入生諸君は、上級生の指導を素直に受入れて、一日も早く小原台生活に慣れて欲しいと思います。規律は集団生活の基本です。規律のない集団生活は秩序を失います。秩序のないところに自由はありません。真の自由は規律のあるところに存在します。

次に研究科に入校した諸君に、一言申し上げます。諸君は今後2年あるいは3年の間、部隊あるいは職場を離れて、高度の理工学または安全保障の学問的研究に専念できるという特権を与えられました。これは、

諸君が自ら進んで勝ち得たチャンスでありますから、寝食を忘れるほどの気概を持って、研究に学問に打ち込んでください。頭が熱くなるほど、何回も実験や思考を繰り返してください。世界の他の研究者に先がけて、独創性に富んだアイデアを出し、立派な研究成果を上げて、それを国内外の学会や論文誌に発表してください。そして、それぞれの関係分野の学理や技術の進歩に大きく寄与するという高い目標を掲げて研究に取り組んでください。そうすることによって、研究とは何か、学問とは何かが見えてきますが、これは学究の徒としての諸君の特権でもあります。そしてそのことが、将来、わが国の防衛技術の発展・強化に、あるいは、日本や国際社会の安全保障環境の向上に大きく貢献してくれると信じます。

続いて、留学生諸君に一言歓迎の言葉を申し上げます。本年度、本科及び研究科に迎える留学生の出身国は、カンボジア王国、インドネシア共和国、大韓民国、モンゴル国、タイ王国、ヴェトナム社会主義共和国です。これらの諸君が、遠く祖国を離れて日本で勉学や訓練、あるいは研究に取り組む決断をしたことに対して、深い敬意を表します。一日も早く、言語、習慣などの困難を克服して、有意義な防大生活を送り、人間的にたくましく成長してください。そして歴史や宗教、政治経済、社会情勢などの違いを越えて、他国民の考え方や心情を理解できる心の広い国際人として、祖国防衛の任務に就くよう要望します。勿論、日本人学生も留学生との交流を通して、自分たちの視野を広め、異なる価値観を理解・尊重できるような心の広い人間になってください。

ところで、先月27日から陸・海・空自衛隊は統合運用体制に移行しましたが、その基盤を成す統合精神は、防衛大学校の建学の目的の一つであります。自衛隊が新しい時代を迎えたこの時期に入校した諸君への国民の期待は大きなものがあります。国民の信頼と負託に応えられるような人間になることに、大きな誇りと喜びを実感できるように日々精進してください。諸君の大いなる健闘を祈って、私の式辞といたします。

諸君、入校おめでとう。